

とけいそう

会報第3号
清水コミセン
パソコンOBの会
北村澄子
2010年6月30日

何でも削減の世相ですが

京都、大阪のホールで開かれるクラシックコンサートに良く行くのですが、時には良い席のチケットが上手く取れなくて、二階のバルコニー席から聴くこともあります。

舞台の真上からオーケストラを横の角度から見ると、この席に最初は不満でしたが、実際にこの席で聴いて（見て）みると、意外と面白いのです。正面の一階席では味わえない楽しさが色々あります。

例えば指揮者の表情、動きが前から見るのが出来たり、指揮者に対するコンサートマスターの弦の動きが分かったり、ピアノの弦の手元が見えたり、特に楽しいのはオーケストラ後列に位置している、打楽器の奏者の動きを見ることです。一人の奏者が小太鼓、トライアングル、シンバル等の複数の打楽器を受け持つって忙しく場所を移動して、時には一曲の演奏のなかで一



回しか出番のない楽器のパートを正確に打ち鳴らす姿は、バイオリンの様な派手さはないものの、感動ものです

最近では地方自治体の予算削減の煽りを受けて、オーケストラも経営面での自助努力をされて、コンサート開始前の指揮者による曲目の解説や、休憩時間のロビーコンサート、終演後の会場出口での団員の見送り等、涙ぐましい努力をされていますが、オーケストラの皆さんには、演奏活動に専念出来る環境を作つてこそ、素敵な音楽が世に広がるのではないかと思っています。

(K・T)

二重に嬉しかった

清水コミュニティセンターの関わり

今年40歳になる長女の一歳の誕生日に、松が丘に引越してきました。

まだ第9中学校の丘を造成していました。その後転勤で高槻を後にして、数年前に夫の定年を機に高槻にもどってきました。

あの若々しい30代の世帯の新興住宅地は、ご他聞にもれず、いまや高齢化、老齢化の町となっていました。夫に続いて、私も

リタイアしたものの、続けている趣味も、地域との関わりもなく、この地域でのこれからの日々をどのように充実させていけばいいものかと思いついて、友人から、清水コミュニティセンターのパソコン教室のことを聞きました。

パソコンは、メールや年賀状や写真のプリントを、娘たちから手取り足取り辛うじて、ぶらさがっている状態で、娘たちが嫁いだ今は、何かあるとお手上げ状態でした。

昨年一年間、本当に落ちこぼれの劣等生の私を、辛抱強く一

から指導していただき、いままで考えてもいなかった、様々なことが一歩ずつ、「目からうろこ」でした。また、センターのいろいろな資料や、先生方、クラスの皆さんから、今まで知らなかった高槻市のことを、遅まきながら、耳にしたり、目にしたりでした。

4月からの「とけいそう」。私一人がXPなので、どこまで着いていけるかが毎週の悩みです。 Y・I

「とけいそう」は清水コミュニティーセンターのパソコン教室を終了した有志8名で構成されています。

V G 榎輪の大岡先生にご指導・ご協力をいただきながら、勉強会として少しずつ新しい事に挑戦しています。

パソコンの奥深さをしみじみ感じながらも、使いこなせる喜び（まだまだですが）を味わいたいと、月2回集まって頑張っています。

一緒にやってみたいと思われる方はどうぞご入会下さい。